



第57回 北海道言語障害児教育研究大会 苫小牧・白老大会

運営委員長 仲見 真樹（白老町立白老小学校長）

第57回北海道言語障害児教育研究大会（苫小牧・白老大会）まであと4か月ほどとなりました。

胆振管内での開催は平成25年の室蘭大会以来であり、苫小牧市における開催は平成14年の全道全国大会以来となっております。こうして再び、本大会が胆振の地で開催できますことを心より嬉しく思っております。

本研究大会は、北海道言語障害児教育研究協議会（道言協）の研究主題「ことばを支える『心の育ち』を大切にした支援のあり方を考える」に基づき、下記の4つの研究の柱に沿って進めて参ります。

- 1 その子をどのようにとらえていくか。
- 2 その子にとっての問題をどのようにおさえ、問題の発生と経過をどうとらえるか。
- 3 その子にとっての必要な育ちとは何か。どのようにかわり、支援するか。
- 4 支援の経過をどのように振り返り、関係する人々とどう情報共有するか。

今回の研究大会は、昨年に引き続き開会式及び全体会、記念講演をオンデマンド配信とし、分科会は交流が深まり多くの情報を共有できるようにと合同形式にしております。一人でも多くの方が参加できるよう、効率的で効果的な研修の機会となるようにと考えております。全道各地からのたくさんの方々の参加をお待ちしております。

また、分科会参加の折には、アイヌ文化の復興・創造・発展のための拠点となるナショナルセンターであるウポポイ（民族共生象徴空間）が白老町に令和2年にオープンしておりますので、是非お立ち寄りいただきお楽しみいただければと思います。